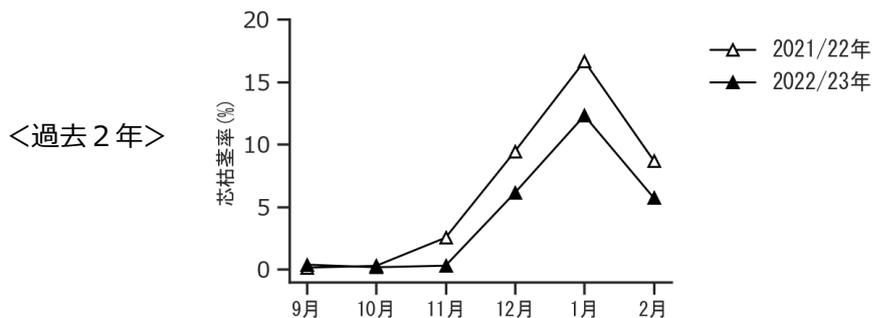
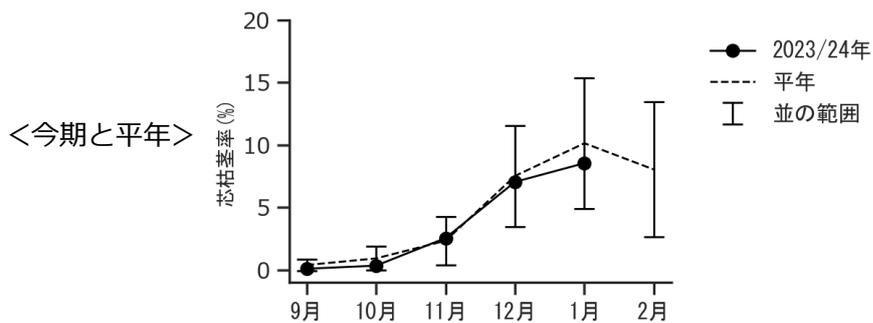


作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	① メイチュウ類		
調査結果	1 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	1 月からの増減傾向	↘	
	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

芯枯茎率の推移(夏植え)



・発生ほ場率100% (平年 : 96.7%)

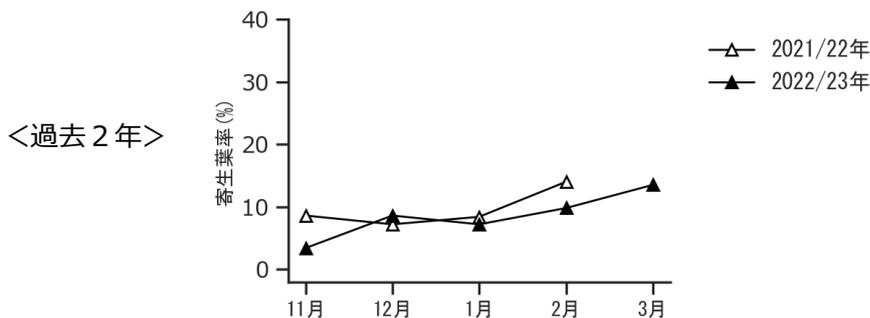
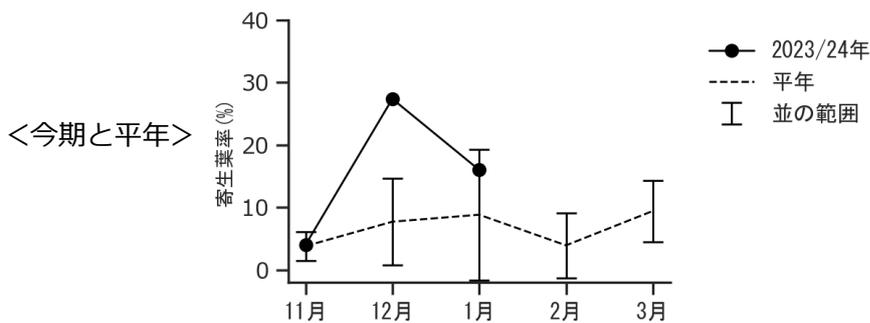
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

作物	かぼちゃ	地域	八重山群島
病害虫名	① ハモグリバエ類		
調査結果	1 月の発生量 ( 平年比 )	並	
予報	1 月からの増減傾向	↓	
	2 月の発生量 ( 平年比 )	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 ( ↓ )	

調査結果

寄生葉率の推移



・ 発生ほ場率80.0% ( 平年 : 60.5% )

防除のポイント

- ・ 多発すると防除が困難になること、また寄生痕からうどんこ病や細菌性病害が侵入する場合があることから、発生初期の防除を徹底する。
- ・ 発生源となりうるほ場周辺の雑草除去に務める。
- ・ 幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・ 防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

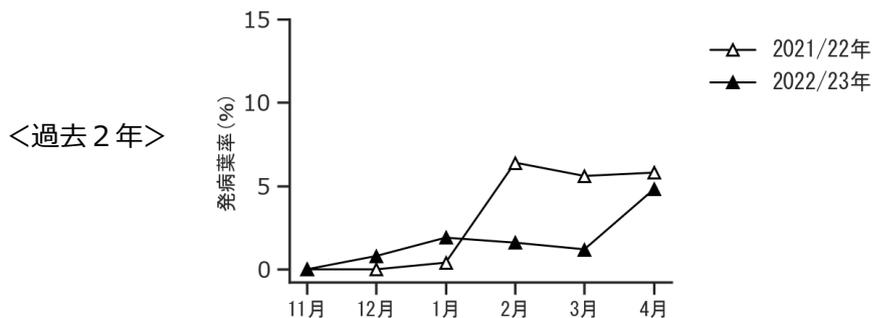
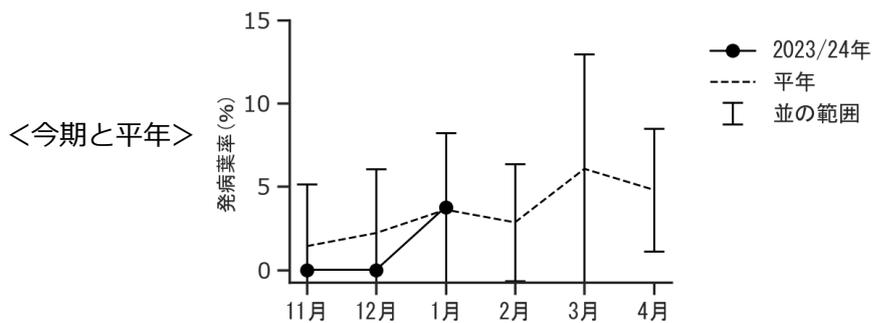
幼虫の死骸  
( 農薬などで死亡すると黒色に変色 )



作物	ニガウリ(施設)		地域	八重山群島
病害虫名	① 斑点病			
調査結果	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報	1 月からの増減傾向	↘		
	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

発病葉率の推移



・発生施設率40.0% (平年 : 62.2%)

防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・老葉や発病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・雨漏りする場所での発生が多くなるため、ビニールの破れ等は補修する。